

# SSKU お元気ですか？ イリアンソスです。

## 2024年度 夏号



Page2 理事長の散歩道

Page3 活動報告

## 連載

## 理事長の散歩道

③③

## 「暮らしを守るということ」 社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

毎日暑い日が続きますね。この原稿は八月六日に書いています。「夕涼み会」にて花火を打ち上げることができました。花火は故人の魂を鎮める鎮魂花火や供養花火といわれていますね。

今年の七月七日に渡邊行教さんのお母様がお亡くなりになりました。昨年の十月にくも膜下出血により意識が戻らず、入院生活をされていたのですが、七夕の日に逝ってしまいました。七五歳でした。

渡邊さんとの出会いは、かれこれ四十年前に遡ります。わたしがこのみの職員で二五歳の時です。渡邊行教さんの妹さんの出産予定が近づき、お母様が入院することになりました。当時、行教さんは小平養護学校（特別支援学校）に在籍中で、お父さんは仕事が忙しいため、朝と帰りの通学バス停までの送迎とお父さんが帰ってくるまで自宅で過ごしました。お母様が入院する前にいろいろ準備をしました。特にわたしは行教さんに慣れるために、何回か自宅にお邪魔させてもらい、筋緊張のある行教さんの食事介助は、慣れるまで練習させてもらった思いがあります。いろいろと丁寧な

教えてくれるお母様には、ただただすごいと感心しながら勉強させてもらっていました。そのころは、行教さんも小学部でまだ小さかったので、時間をかけてゆっくり食事をするのができたと思います。

その後、わたしがこのみを辞めて建設業で職人をしていたので、たまたま小平養護学校の建物の工事をしているときに、行教さんが通学バスから降りてくる姿に出くわしました。その姿を見た後、わたしはのぞみの家の施設長を引き受けることになりました。

行教さんは最重度で寝たきりのため、全面介助が必要な方でした。前述したように筋緊張もありとても体力を消耗していました。もうその頃は成人になっており、身体も大きくなっていて介助も大変でした。

お母様は、学校卒業後の行き場をのぞみの家を選んだ理由を教えてくださいました。当時、重度の人たちが行く別な施設も見学されていて、迷っていたそうです。ただ、行教さんが寝たきりではあったのですが、周りのことをよく見

て笑顔など豊かな表情をたくさん見せてくれていたので、動き回り人もいるのぞみの家を選んだといっていました。イリアンソスの初代理事長の石原先生も行教さんを見て、意思がしっかりしている人ですねといっていました。なるほどとわたしは、お母様の行教さんへの想いをあらためて強く感じました。

また、イリアンソスではじめてグループホームを開所したときに、行教さんを誘いました。ただ、ほかの事業所も同じ時期にグループホームを開設されており、こどもお母様は迷われていたようです。最重度の息子が自分以外のスタッフと生活できるのかととても不安だったと思います。後でお母様と話した時には、どちらがいいか迷ったのですが、のぞみの家でいろいろな経験があったので、イリアンソスのグループホームにしたと話してくれました。そして、グループホームでの生活が始まりました。お母様は最初の何年かは行教さんの部屋に泊まりながらグループホームのスタッフに介助の方法や行教さんが食べやすい食事の形態など教えてくれました。

そんな暮らしの中で、何度か誤嚥性の肺炎に行教さんがかかってしまい入院をしたことがありました。行教さんにとって初めての入院でした。お母様も心配で同じように病院に寝泊まりして看護のお手伝いをされていました。病院なので誤嚥しないように普通食から配慮食になったのですが、行教さんがおいしそうに食事をされている姿を見て、改めて行教さんの対応力に感心したとお母様が話してくれました。親としては食事が唯一楽しみにしているわが子にはできるだけ普通食を提供したいという強い思いがあったようです。その後、行教さんが経管栄養にするときは何度も話し合いを重ねて家族に納得していただきました。

今では、行教さんは、緊張もあまりせずいい表情をして暮らしています。お母様の葬儀にも参列でき、行教さんの成長している姿を安心してお母様も見ているのではないかと思います。

これからは、お父さんと一緒にわたしたちスタッフや地域の人たちと行教さんの暮らしを守っていきたいと思います。安心して空から見守っていてください。

## 入職式

4月に入職式がおこなわれました。研修を経て、日々奮闘しています。よろしくお願いします。

▼入職してはじめて利用者の方と一緒に過ごすなかで、戸惑うこともありましたが新しく発見することや喜びをいただくことが多い毎日です。これからも日々沢山のことを学んでいきたいです。(生活寮うみ・鈴木歌歩)

▼はじめての環境で、刺激的で楽しい毎日を過ごさせていただいています。これから一緒に過ごす中で、もっと利用者さんの事を知っていききたいです。(のぞみの家・江頭朱夏)



## 夕涼み会

八月二日に東京学芸大学付属特別支援学校のグラウンドで開催された夕涼み会。東久留米市内の福祉施設が一堂に介して模擬店やゲームコーナーを出店して多くの人で賑わいます。中央に設けられたやぐらや特設ステージでは盆踊りやダンスなどの表現活動も披露されてお客さんと一体となって盛り上がります。

イリアンソスでは法人の地域貢献事業としてやきそばの模擬店を出店しました。職員総出で準備・販売をします。こうした行事を通して職員同士の横の連携も生まれてきます。今後も地域貢献事業として法人のことで地域福祉のことを広められていければと思います。夕涼み会の最後には打ち上げ花火が夏の夜空に咲きました。





この日の活動風景



このみでは、四月に小学一年生の三人を迎え活動が始まりました。小学校に入学し新しい環境になることで戸惑いもあったと思いますが、元気いっぱいに過ごせています。三人に共通する好きな遊びは、おままごとです。おもちゃの包丁でお野菜を切ったり、お弁当箱にお肉やパンを入れたりしてスプーンを添えて：。「どうぞ」と渡しに来てくれます。「美味しかったよ、ごちそうさま。おかわりください！」と、楽しいやり取りが続きます。笑顔でさよならの挨拶をみんなまで交わし帰っていく姿が見られると、とても嬉しく思います。

今後も一年を通して季節折々の楽しい行事が行われますので、たくさんのお友達と余暇を楽しく過ごしていけるようスタッフ一同見守りながら支援をしてまいります。

上級生達はクラス替えがあったり、寒暖差が大きい日があったりしてリズムが崩れ体調を崩してしまうこともありましたが、心も体も著しく成長している彼らは個々のペースで乗り越えようとしている姿が見受けられました。生活環境の変化により、日々、見せてくれる表情や体調が変わってきますが、学校での引継ぎや、保護者の方々からの情報を迅速に共有し、活動に活かしながら支援を心掛けています。また上級生は、お友達とのやり取りも増え、自分らしく伸び伸びと過ごす姿が多く見られます。

高校生は春にスポーツフェスタという名の運動会も終えました。一人通学を始めたたり部活に入る人もいて、それぞれの夢や進路に向かって進む姿が輝かしく感じるこのごろです。



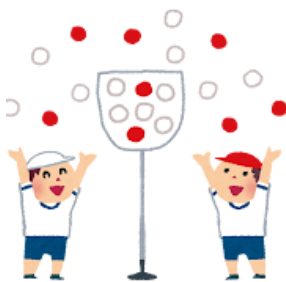
おままごと大好き！



コマを回してるよ！



肩こつてますね〜と、おふざけ中



# 活動センターかなえく活動報告く

## きょううされん とうききょう大会に代表派遣

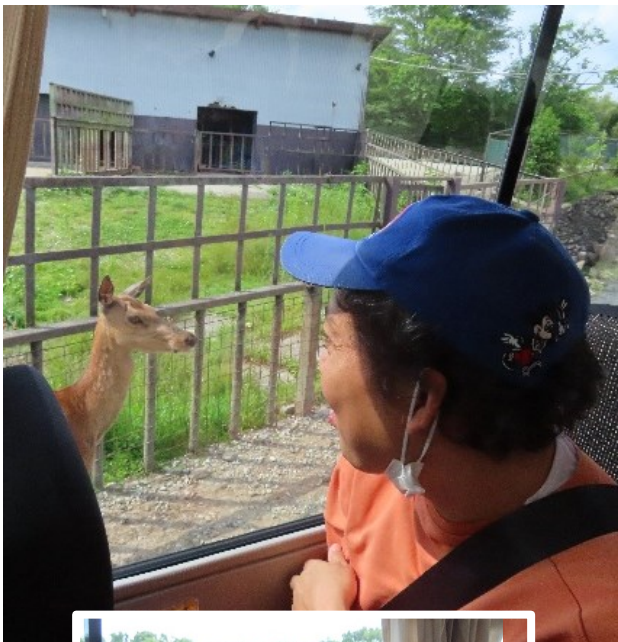
きょううされん東京支部で企画された「とうききょう大会」へ、かなえくからは、利用者代表派遣として、浜松町にある産業貿易センターの会場まで電車で中村水紀さん、渡辺聖土さんの二名が参加しました。大会では、元旦に起きた能登半島地震で被災された地域の現状報告を聞き、災害支援募金もしてきました。分科会では「うたって おどって」の時間を満喫しました。はじめて出会った東京のなかまたちでしたが、音楽を通して、気持ちが通じ合う時間を共有してきました。のちの二人の感想からは「また、行ってみたいな」とのこと。貴重な体験だったようです。



## だるま班 宿泊行事(栃木県那須)

数年ぶりの宿泊行事になりました。感染対策を行い、一泊二日で栃木県の那須高原へ行ってきました。

一日目は那須サファリパークにでかけ、動物を車内から見る事ができました。目の前までキリンの顔が近づき、驚きました。また、宿泊先の「なかがわ苑」では、馬頭温泉のお風呂に浸かり、夕食には和食を堪能しました。部屋では仲間やスタッフらと共にのんびり過ごす事もできました。天候にもめぐまれ、日々の活動とはひとあじ違う時間を満喫しました。





## ～のぞみの家～

**元気なたんぽぽ班！久しぶりの宿泊旅行！！**

晴天の中、たんぽぽ班全員揃って宿泊旅行に出かけることが出来ました。今回はムーミンバレーパークでの写真をご紹介します。





## なかまの家

### 「レクリエーションを楽しめるように」

月に一度、行われる活動行事レクリエーション（今後はレクと略す）は、利用者みんなが楽しく活動ができるようにと職員で企画をしています。今回は六月に行なわれた多摩六都科学館の展示を楽しむレクの企画について紹介していきます。

最初は、四月の会議で利用者みんなが楽しめそうな場所の案を出し合います。案を出すうえで意識していることは、案で挙げられた場所の具体的なスポットです。利用者みんなの好みは必ずしも同じとは限りません。複数のジャンルで楽しめそうな施設やコーナーが集まっている要素は候補の一つとなります。案をだした後は、日付や準備について決めていきます。検討内容として、案を実現するための準備期間や季節ごとの気温、他の活動や行事と被っていないか、さらに感染対策として特に人が密集しないかなど検討します。

具体的には、夏の時期は内での活動、または涼しい場所を候補にして、昼食時の席の確保や遊具を利用する場合は、それぞれの人が少ない時間を把握してその時間に合わせて計画を立てるなど、充実した活動が行えるように話合います。また、今まで行ったことがない場所は、事前に下見にいき



ます。六月の多摩六都科学館はしばらく行ってなかったの、改めて下見をする必要がありました。下見の有無によって、準備期間を長めに設定する必要が出てきます。下見のポイントとして、楽しめるスポットや休憩所、トイレの利便性があります。例えば、車いすを必要とする利用者の中には、トイレ介助時にベッドが必要な人もいます。また、車いすから便座に移乗

する際の介助に必要なスペースが確保されているか、男性トイレの場合、立ち便器の上に腕を掛けられるバーが存在するかなど確認していきます。介助に必要な利便性の有無によって計画を進めるか否かを判別していきます。

このように、活動の流れを構想して必要な設備、利用者みんなにとって楽しめる場所の有無を検討していきます。吟味した後はスケジュールを組んでより具体的な活動内容を確定させていきます。当日のスケジュールが完成したら、それに合わせて活動していきます。

実際に六月のレクで多摩六都科学館を訪れると、様々なゲームや動画視聴などを中心に楽しめる展示物がたくさんあり、利用者みんなは興味津々に展示物に手をのぼしたり、体験したり、とても楽しんでいる様子が見られました。さらに休憩所も利用者みんなが快適に利用できる設備が整っており、利用者みんなが楽しく過ごすことができるレクとなりました。



ご寄付をいただきました(2024年4月~2024年7月まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。  
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 寺島美紀様 崎原照代様 板垣順子様 梅原雅子様

ありがとうございます。

## 社会福祉法人イリアンソス

### ●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18  
042-473-9027  
042-473-9036 (F)  
nozomi@iriansos.or.jp

### ●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51  
042-452-6405  
042-452-6415 (F)  
kanae@iriansos.or.jp

### ●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47  
042-472-7130  
042-444-3722 (F)  
nakama@iriansos.or.jp

### ●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7  
042-476-3400  
042-420-5126 (F)  
sora@iriansos.or.jp

### ●このみ

東久留米市幸町3-8-23  
042-473-9667  
042-420-9662 (F)  
konomi@iriansos.or.jp

## 《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

## 《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

## 《編集委員》

磯部光孝・多田由美・斉藤加奈子・津田雪枝・鈴木麻由佳  
木村百合・江頭朱夏・小林玄斎・吉田遊佑

イリアンソス



定価100円

表紙の写真

入職式と働く姿。日々、頑張っています！。